

# 大阪府済生会中津病院年報 2号の歩みの一コマ； 10巻～24巻（1999年～2013年）

瀧田正亮

大阪府済生会中津病院 歯科口腔外科 元中津年報編集委員

## 抄録

大阪府済生会中津病院年報 2号10巻～24巻（1999年～2013年）について、本誌の特徴を回顧した。病院管理者関係および院外からの寄稿論文や記事を総覧すると、病診連携（7件）、個人情報保護（7件）、院内感染対策（2件）、人事制度・人事考課（2件）、禁煙への啓蒙および異常死（各1件）など、時代に即した病院管理に直結する重要事項が本誌の歩みの一コマとして収録されていた。

**Key words：**病院誌 病院管理 医学雑誌

## はじめに—医学雑誌としての中津年報とその特色

大阪府済生会中津病院年報は医学中央雑誌詳細情報には1992年10月より発行、発行頻度年2回刊とあり、略誌名：大阪済生会中津病院年報、英語誌名：Annals of Saiseikai Nakatsu Hospital, Osaka, 別誌名：中津年報, Ann. Nakatsu Hosp, 分類：医学と明記されている。30年の時の経過を経ても、なおそのスタイルは連綿と受継がれ医学雑誌としての役割を担っている。本誌にもいくつかの特徴がみられるので、歴代編集委員長の編集ポリシーを紐解くとともに病院管理者の本誌への関わりに注目して、10巻～24巻に掲載された病院管理者が関係する論文と記事を回顧した。また、同時期に掲載された論文や記事のなかから、国外症例の報告や院外から寄稿された解説書などの掲載も本誌の特色の一つとして合わせて回顧した。

## 歴代編集委員長の目標と特徴

初刊に尽力された四宮先生（小児科）と平本先生（形成外科）は学生時代からの旧知の仲で一流の病院には学術雑誌が必要という信念から当時の辻野博之院長に申し出て、四宮先生が編集委員長、平本先生が副編集委員長として編集委員会を発足させ1990年に初刊が発行された。現在でも受け継がれている中津年報の表紙の色は当時のPediatricsに因んだことからその意気込みの強さが窺われる（Pediatrics 2019～2020年のImpact factor: 5.359）。四宮先生の後を継いだ平

本先生は病院における臨床論文の重要性を更に実践され、その編集ポリシーは22巻2号巻頭言に感銘深く要約されている。平本先生からバトンを受けとった私（歯科口腔外科）は、お二人の熱意を消すことがないようにと病院にとって重要な記録を掲載するためにひたすら編集に取り組んだ。その後四宮先生の息のかかった大和先生（小児科）にバトンが渡され、そして現在の中澤先生（膠原病内科）へと受け継がれ、データのデジタル化に対応しつつ学術雑誌としての成長が遂げられている（表1）。

表1 中津年報編集委員長と各巻2号の編集ポリシー

担当	編集ポリシー
四宮敬介 1巻～8巻	中津病院の発展のために学術誌が必要
平本道明 9巻	論文を書く習慣が臨床医には必要、若い人には中津年報は最適
瀧田正亮 10巻～24巻	中津病院にとって重要な記録の収録/書かない秀作より書く駄作*
大和謙二 25巻～27巻	様々な視点からの論文（医学、医療、福祉、病院経営）掲載の推進
中澤 隆 28巻～	フォーマットの画一化と電子化データとして公開**

\*当時の中津病院斎藤院長より編集のためにと患与された冊子抜萃のつづりより引用

\*\*26巻から近畿病院図書室協議会共同リポジトリ（KINTORE）に参加登録し電子データとして公開

受付け：令和3年7月8日

### 中津年報と中津病院管理者（編集委員歴および投稿歴）

本誌についての特徴の一つに編集委員歴をもつ病院管理者が少なくなかったためか病院管理者が関係した投稿が注目される。中津病院における病院管理者とは病院管理会議構成者、すなわち院長、副院長、薬剤部長、看護部長、事務部長であり、本誌編集委員歴をもつ病院管理者は計9名（初刊～24巻）、病院管理者と大阪乳児院施設長が関係した投稿は就任時期を問わず集計すると18名合計36編（10巻～24巻）に達した。それらの内容は病院管理に関するもの、学会や研究会開催記事、臨床論文など多岐にわたるが、病診連携に関する記事、結核院内感染、個人情報、医師の人事考課など、時代に即した論文や記事が掲載されており、病院管理の歩みの一筋の流れを読み取ることができる。また、管理者就任以前に投稿されていた論文や記事についても、その後の病院管理に参画する著者の姿勢が一連の時系の中で既に示されていたことは興味深い（表2）。中でも東 先生（中津医療福祉センター医療安全管理者を歴任）の抗癌剤毒性に関する論文には、抗癌剤に関連した医療事故防止の指導力の根底が内在している。

### 国外症例および院外からの寄稿

10巻～24巻（1999年～2013年）では国外症例1件と院外からの寄稿は13件を数えた（表3）。国外症例は元本誌編集委員長の平本先生（形成外科）がベトナム・ダナン病院での手術指導滞在中に現地のスタッフとともに経験された1例で同院スタッフとの共同論文であった。院外からの寄稿は主に招聘講演の演者からであり、参加できなかった職員のために依頼し、寄稿いただけなかったことは編集担当者として感謝の念に堪えなかった。これらは弁護士や専門コンサルタントによる個人情報保護に関するもの、医療経済（川淵先生の医療事故の予防を基調とした医療経済）、緩和医療（武田先生の癌疼痛治療の基盤作り）など、重要な解説書として収録させていただいた。外部目線から小松先生は中津病院の医療安全に必要な要件を、瀧 先生は医療機関の連携における重要な要因について寄稿をいただいた。井上先生の講演録は本院PETセンター開設3周年特別講演のものであるが、その2年後に急逝・他界された。井上先生への追悼の意を表す趣旨で井上先生と旧知の淵端先生の追悼記事を掲載させていただいた。

### まとめ

歴代編集委員長の編集ポリシーを提示し中津年報2

号の学術雑誌としての歩みを振り返った。また、表2と表3の文献リストからその内容を集約すると本誌10巻～24巻2号（1999年～2013年）には病診連携7件、個人情報7件、中津医療福祉センター学会記事関連7件、院内感染対策2件、人事制度・人事考課2件、禁煙への啓蒙および異常死各1件など、病院管理に直結する重要課題についての論文や記事が収録されており、本誌の歩みの一コマとして回顧した。

表2 中津病院管理者の投稿論文と記事(10巻～24巻)

著者	タイトル	巻数 年
Toru Yamamoto	Incorrect neurological diagnoses in a general hospital: a personal experience	10巻1999
北野公造	済生会中津病院のクリティカル・パスの現況	10巻1999
末廣 豊*	結核接触者検診結果報告	12巻2001
坂東憲司	結核接触者検診結果報告	12巻2001
末廣 豊	第16回中津医療福祉センター学会を開催して	12巻2001
桑原 隆	会議報告第1回済生会中津病院病診連携勉強会	12巻2001
斎藤洋一	第17回中津医療福祉センター学会を開催して	13巻2002
桑原 隆	会議報告第2回済生会中津病院病診連携勉強会	13巻2002
末廣 豊*	食物依存性運動誘発アナフィラキシーの3例	14巻2003
桑原 隆	会議報告第3回済生会中津病院病診連携勉強会*	14巻2003
蘆田 潔*	内視鏡的粘膜切除後に幽門狭窄を来した早期胃癌の1例	14巻2003
西村治男*	バセドウ病に甲状腺乳頭癌を合併した1例	14巻2003
Hirotsugu Ohashi*	Slowly progressive metallosis after THA—A case report with long-term follow up	15巻2004
大橋弘嗣	日仏整形外科学会(Soci�t� Franco-Japonaise d' Orthop�die, SOFJO)の紹介	15巻2004
大橋弘嗣	イタリア学会報告記	15巻2004
東 千尋	抗酸化剤を中心にした抗癌剤毒性緩和について	15巻2004
仙崎英人	症例報告と個人情報保護	15巻2004
大和謙二	小児科、免疫・アレルギーセンターの紹介医連携の試み—「同舟会」10年の歩み—	15巻2004
仙崎英人	診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業	16巻2005
龍田正亮	中津年報における患者プライバシーの保護	16巻2005
根岸孝明	私と中津病院麻酔科	16巻2005
大和謙二	2005年同舟会報告	16巻2005
今西裕子	平成17年度看護部TQM活動	16巻2005
川嶋成之亮	血管内皮機能検査の新しい展開	17巻2006
Hirotsugu Ohashi*	Pimping out phenomenon of HA granules: A sign of cup loosening after revision THA with impaction grafting using HA granules	17巻2006
大和謙二	2006年同舟会報告	17巻2006
大橋弘嗣	深部静脈血栓症・肺血栓症(エコノミークラス症候群)に対する整形外科の取り組み	18巻2007
小林克也	アメリカの医療と看護、介護の現状: 急性期と慢性期、在宅の連携を中心にして	18巻2007
大和謙二	病院における医師の人事考課試論	18巻2007
北野公造	第22回中津医療福祉センター学会を開催して	18巻2007
末廣 豊	河合隼雄先生を偲んで	18巻2007
坂東憲司	第100回日本結核病学会第75回日本呼吸器学会近畿地方会の会長を勤めて	21巻2010
山本 徹	第27回中津医療福祉センター学会総括	23巻2012
戸田常紀	禁煙対策について—愛煙家の立場も踏まえて	24巻2013
坂東憲司	第28回中津医療福祉センター学会総括	24巻2013
大橋弘嗣	「仏日・日仏整形外科学用語集」を出版して	24巻2013

\*共著の論文・記事は筆頭著者に限定した。

•済生会中津病院病診連携勉強会会議報告記事は、15巻～25巻までは質疑応答内容を含めて編集委員会で作成し掲載した。

表3 国外症例および院外からの寄稿

著者	タイトル	巻数 年	所属
Michiaki Hiramoto, Do Van Hung, et al	Kimura`s disease -A case report	14巻2003	中津病院
小宮山展隆	医療における個人情報保護	15巻2004	色川法律事務所
荒木 栄	病院における人事精度改革について	16巻2005	日本総合研究所
鈴木達也	個人情報保護法-医療を取り巻く個人情報取り扱いの課題	18巻2007	クラヤ三星堂
井上武宏	がん放射線治療の今日と明日	19巻2008	大阪大学 放射線治療学
小松 彪	麻酔科の応援で気づいたこと	19巻2008	石切正喜病院 麻酔科非常勤
瀧 邦高, 他	三叉神経患者に対する脳神経外科との病連携 何故、大阪府済生会中津病院脳神経外科に三叉神経痛患者を紹介するようになったのか	20巻2009	大阪大学 歯科麻酔科
廣田和子	コンプライアンス個人情報の保護について～私たちは個人情報に囲まれています～*	20巻2009	ニチイ学館
廣田和子	コンプライアンス個人情報の保護について～私たちは個人情報に囲まれています～*	21巻2010	ニチイ学館
淵端 孟	阪大放射線治療学講座の誕生、そして井上武宏教授との出合	21巻2010	大阪大学 名誉教授
川淵孝一	医療経済学から見たリスクマネジメント～求められる医療の質と効率化の同時達成**	22巻 2011	東京医科歯科大学医療経済学分野
武田文和	がん緩和ケア基盤作りは、WHO方式がん疼痛治療法に則った痛み治療の充実から	22巻 2011	埼玉医科大学 客員教授
牧村浩志	医療機関における個人情報保護研修会	22巻 2011	ソーシャルブレン
福島 繁	「職場の進化と発展」-第27回中津医療福祉センター学会に参加して-	23巻 2012	ベスト経営研究所

\*20巻では個人情報保護法など総論的内容, 21巻では医療機関における個人情報漏洩事例や漏洩防止の取り組みなど各論的内容  
\*\*第35回中津医療福祉センター学会特別講演録(学会長: 鈴木辰美事務部長)

稿を終えるにあたり、編集委員在任中常に温かいご助言をくださった斎藤洋一名誉院長、小林克也前院長、川嶋成之亮総長・院長、ともに編集作業を支えてくださった元編集委員長平本道明先生、元副編集委員長の上田 恵先生、仙崎英人先生、太田健介先生に、図書室吉原理恵司書に、そして懸命に編集に携わってくださったすべての編集委員の方々にこころから感謝いたします。

#### 資 料

- 医学中央雑誌刊行会 医中誌Web. <https://www.jamas.or.jp/service/ichu/>
- 中津年報 1990.1, 1999～2013.10～24 各巻2号
- Pediatricsインパクトファクター-ランク・動向・予測分析  
<https://academic-accelerator.com/Impact-Factor-IF/jp/Pediatrics>
- 光原百合: 書かなければ始まらない。抜萃のつづり その六十六, 熊平製作所発行, 広島市, 2007, p 41-44

# A Review of the Annals of Saiseikai Nakatsu Hospital, Osaka: Volumes 10-24, Issue 2 (1999-2013)

Masaaki Takita

Department of Dentistry and Oral Surgery, Saiseikai Nakatsu Hospital, Osaka.  
Former editorial board Annals of Saiseikai Nakatsu Hospital, Osaka

To clarify the characteristics of the Annals of Saiseikai Nakatsu Hospital, Osaka, the author reviewed Volumes 10-24, Issue 2 (1999-2013). On classifying contributed papers and articles from those engaged in hospital management and out-of-hospital parties, important topics, which are directly connected to hospital management to meet the needs of the times, such as hospital-clinic collaboration (7), personal information protection (7), hospital-acquired infection control (2), personnel systems/personnel evaluation (2), and activities to raise awareness of smoking cessation and unnatural deaths (1 each), were observed as factors driving the progress of this journal.